

00	09	03	002	永年保存	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長副議長事務局長次長主査主査担当											文書取扱主任			

第 27 回 市立病院建替計画等調査特別委員会 会議録

開催年月日		平成22年9月2日(木曜日)		開会：13時32分		閉会：14時46分	
開催場所		第一委員会室					
出席委員		井上、山木、渡辺、酒井、山口、関藤、堀、田村				事務局	田湯次長
		議長、委員外～窪之内					寺嶋主査
欠席委員		荒木					
説明員		別紙のとおり					
議件		別紙のとおり					
議 事 の 概 要	1 調査事項について						
	次の事項について、所管から説明を受け、質疑を行い、報告済みとした。						
	(1) 工事の進捗状況と今後のスケジュールについて						
	2 その他について						
	鈴木部次長より市立病院改築工事に対する投書について説明があった。						
	3 次回委員会の日程について						
	正副委員長に一任することとした。						
	上記記載のとおり相違ない。市立病院建替計画等調査特別委員長 井 上 正 雄 ㊞						

平成22年9月1日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘

市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席について

平成22年8月23日付け滝議第93号で通知のありました市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市長の委任を受けた者

市立病院事務部次長

鈴 木 靖 夫

市立病院事務部改築推進室主任技師

横 田 和 典

(総務部総務課総務グループ)

第 27 回 市立病院建替計画等調査特別委員会

H22. 9. 2 (木) 13:30
第 一 委 員 会 室

○開 会

○委員長挨拶(委員動静)

1. 調査事項について

(1) 工事の進捗状況と今後のスケジュールについて (資 料)

2. その他について

3. 次回委員会の日程について

○閉 会

第 27 回 市立病院建替計画等調査特別委員会会議録

H22. 9. 2 (木) 13 : 30

第一委員会室

開 会 13 : 32

委員動静報告

委員 長 荒木委員欠席。議長出席。委員外～窪之内。

1 調査事項について

委員 長 (1) について説明願う。

(1) 工事の進捗状況と今後のスケジュールについて

鈴木部次長 資料にはつけていないが、工事にかかわっている従業員者数を報告させていただく。市内と市外に分けた従業員者数の累計だが、建築工事については、2008 年 10 月から 8 月 31 日までで市外業者が 4 万 2,385 人、市内業者が 4,453 人の合計 4 万 6,838 人の延べ人員数となっている。市内業者の従業員者数の割合は 9.5%である。電気工事については、市内業者が 504 人、市外業者が 3,692 人の合計 4,196 人で、市内業者の従業員数の割合は 12%である。空調・設備工事については、市内業者が 325 人、市外業者が 7,792 人の合計 8,117 人で市内業者の従業員者数の割合は 4%である。衛生設備工事については、市内業者が 560 人、市外業者が 3,911 人の合計 4,471 人で市内業者の従業員者数の割合は 12.5%である。今申し上げた人員数は、あくまでも延べ人員数ということで理解願う。

(別紙資料に基づき説明する。)

委員 長 説明が終わった。質疑はあるか。

田 村 市内業者の仕事にかかわっている人員が非常に少ない。一番多くても 15%くらいで 85%は市外である。滝川に仕事ができる人が余りいないのか、それとも入札等の関係で大手が全部引き連れてきているのか伺う。

鈴木部次長 市内業者の採用については、この工事が始まる段階でそれぞれの J Vの方にもお願いをしてきている。15%が少ないという指摘だが、地元の業者、人の調達の問題等も含めてこのような結果と受けとめている。今後これがふえるというような新しい工事はないので、この率で推移していくものと思う。

田 村 これだけの大きな工事なので、滝川の業者が零細の一番下までがやれるような仕事がたくさんあると思う。滝川の業者で電気や空調などいろいろ取っているところもあるが、こういうところにも市外業者が入っている。技術者がいないなど人員がいないというのであればよいが、少なくとも 20%くらいになる方法はないのか。業者に要望しても受け入れないのか。落札したから自分たちで自由に建てればよいという感覚なのか。そういう指導をしていないのか伺う。

委員 長 答弁調整のため若干休憩する。

休 憩 13 : 46

再 開 13 : 47

委員 長 休憩前に引き続き会議を再開する。答弁を求める。

横田主任技師 工事の監督員として全般を担当している。指摘のあった内容について、基本的に元請業者の下請採用については選定通知ということで届け出を受理している実態がある。工事が始まる前にもできるだけ地元の採用をお願いしたり、協力依頼を促しているが、地元が出てこないからといって、その選定通知に対して地元を採用しないとだめだというような強制力はない。あくまでも元請 J Vが技術者数、契約金額などを考慮した中で採用している実態として、なかなか地

元が入ってこれないのが実態である。指摘にもあったようにできない作業も多くある。クロスを張るとか塗装などは若干入っているが、タイルを張るとかレンガを積むという作業ができる業者は市内にはなかなかいないので、市外業者を主体として採用しているのが実態である。

田 村 新しい病院で留萌、深川、砂川などの地元採用について調べたことがあるのか伺う。

横田主任技師 砂川市立病院なども気にしていたが、情報としてはまだ入手していない。留萌市、深川市、苫小牧市などは今回のJV構成とは違っていわゆるスーパーゼネコンが元請として入っているの、そちらについても地元という部分での雇用関係の調査はしていない。

田 村 地元を使うということを議会でも大きな声として出ていたはずである。工事はまだ残っているが、地元業者が手を挙げないという実態なのか、それとも手を挙げているが技術力がなくてだめなのかをよく分析してほしい。滝川の業者が何社くらい入っているのか次回まででいいので調べてほしい。

委員 長 他に質疑はあるか。

関 藤 今後のスケジュールの表で医療機器、什器・備品で1月、2月、3月に搬入・設置・調整、トレーニングとなっている。トレーニングとはどのような方法でどのくらいの期間をかけて行うのか伺う。

鈴木部次長 特に医療機器については、契約から納入までの期間がかかるので、年明けの1月から搬入されてからも調整にかなりの時間がかかると考えている。その後職員にその機器を使いこなせるようにトレーニングをしてもらうことで、レントゲン機器であれば1カ月間くらい技術者のもとでトレーニングを積んで、開院後にスムーズに対応できるように考えている。搬入後の約1カ月間をトレーニング期間と考えていただければと思う。機器の搬入については、機器によってばらばらだが1月から2月中に納入ということで考えて入札を行っているところである。

関 藤 この機器について、どれくらいのトレーニングの期間を要すれば十分使いこなせるようになるのかわからないが、砂川市の幹部の方の話では10月28日のオープンに向けて、新しい什器、電子化などを進める中でトレーニングをしているようだが、間に合わないという懸念の声が上がっている。滝川ではそのようなことがないように進めていただきたいが大丈夫なのか伺う。

鈴木部次長 現在砂川市が行っているのは電子カルテを新たに始めることで全く運用が変わってくるので、全庁的に医師から看護師までのすべてがかかわるような部分があるので、早くから準備をしていると聞いている。滝川市については、現在ある機器の新しいバージョンの導入なので、1カ月間あれば技師がしっかりトレーニングを積めると考えている。

委員 長 他に質疑はあるか。

渡 辺 移転で医療機器が停止するのは日程的に待ってほしいといったことはあるのか。移転日が近くなって診療しなければならないといったケースもあるのか伺う。

鈴木部次長 移転を決めるに当たってのポイントはあると思う。医師の異動の関係もあるし、年度をまたぐ関係、患者の多い少ないといったことも考慮して移転日を考えている。仮に移転日が決まるとすれば、それに向かって当然外来診療を休まなければならないのが何日かということも見えてくる。当院としては外来患者に迷惑をかけないことを前提に考えているので、2日程度休むことで考えている。ただ移転の日時が4日必要なのか、5日なのかということとも関連して、外来

委員長
酒井

の休みと移転のスタートを土曜日からするのか平日からするのがいいのかいろいろパターンを検討しているところである。

他に質疑はあるか。

① 移転準備委員会の設置がスケジュールで示されているが、以前の委員会等で示されていたのは入院患者の移転などについてトラブルがないように進めていくということだった。具体的にこういったトラブルが考えられるのでこういう対応をするといったシミュレーション的なものは組まれているのか。また、準備委員会はこういった方がなるのか伺う。

② 移転業者にある程度のノウハウが必要なのはわかるが、こういった形で決めるのか伺う。

③ 冬になって昨年のように交通規制などが一時的に行われることもあるかもしれないが、機器の搬入時にはないのか伺う。

鈴木部次長

① 患者の搬送の関係だが、もちろん患者を新病院に安全に移動するのは重要と考えている。移転業者が決まった段階で移転計画を作成し、患者搬送のシミュレーションも本番前に行うことで考えている。委員会について、業者が決まった段階で準備委員会を立ち上げ、その中に小部会として患者搬送部会や医事部会などを立ち上げたいと考えている。

② 医療現場がある、患者が常にいるということで一般の移転業務とは違うことから、経験のある業者を重視したいというのが病院側の考えである。その中で絞り方を今検討しているが、日通と札通が病院の移転を請け負っているので、一般的な業者は実績がないので、2社を中心とした選定になると思う。

③ 搬送に伴う交通規制だが、新しい病院が完成すると正面玄関からと仮設スロープから入っていける。また仮設の廊下をつくる計画で考えているので、3カ所からの搬入ということになれば大きく交通規制をしなくても引っ越しの搬送はできるのではないかと考えている。業者が決まったときに業者から計画が出てくると思うので、今後きちんと整理して皆さんに報告させていただきたい。

酒井
鈴木部次長

大きな交通規制はないとのことだが、仮設の廊下について説明願う。

仮設の廊下は旧病院の9病棟の突き当たりと新病院の通路を結んでつくることを計画している。そこなら患者は天候にかかわらず通って搬送できるということで、そこを利用してスムーズな移転を図りたい。

委員長
山口

他に質疑はあるか。

私の認識では、新病院ができて完全にオープンする前に患者が移って旧病院を解体して、最終的にオープンするのは4月初めとイメージしていたが、スケジュールでは23年10月まで第2期工事となっているので、移転日に新病院に患者も含めて移動して、それから壊すというような理解でいいのか伺う。

鈴木部次長

開院日については以前から3月下旬ということでお話しさせていただいていた。工事については、第1期工事が11月末に竣工ということで、移転終了後に第2期工事に入ることになる。それには仮設スロープを本スロープにするということも入っており、これとは別の契約となるが解体外構の工事もあわせて入ってくることになるので、あくまでも患者の移転については3月中で、移転後に新しい病院を開院するというスケジュールで考えている。

委員長
窪之内委員外議員

他に質疑はあるか。

① 選定した業者を中心にスケジュールを立てて移転するが、実際に移転に当たっては病院職員だけを想定しているのか、それとも一定数の市職員もかかわって移転作業をしようとしているのか伺う。

- ② 先ほどの話では移転日は決定していないということで、医師の異動も考慮してのことだと思う。医師の異動は4月1日を開院予定とすると、新しく異動してくる医師がそこに対応できるような期間の余裕を持つての異動があるのか。
- ③ 看護師の新規採用もあるので、それらは採用日を早めたりしてトレーニング期間に訓練を予定しているのか、それとも入ってからを予定しているのか伺う。
- 鈴木部次長 ① 業者決定後、業者がやる範囲と職員がやる範囲とが明確になった段階で職員としてすべて行うことが可能なのか、市の手伝いが必要なのかを判断していきたいが、私が調べた事例では応援を頼んで行った事例はないので、できるだけ決められた時間内でスムーズにできる移転の日程を組みたいということと、できれば1日くらいの余裕を設けた日程を考えている。仮に市職員が入ってもダンボールを運ぶなどの作業と思うが、もう少し具体化してから結論を出したい。
- ② 移転日についてだが、医師の動向を考えると4月1日から来る医師は、その前の土、日曜日や平日に来ることが多く、出ていく方も多いということで、そういう時期に移転をするのはいかがかと考えているのが実情である。できる限り新しい医師もスムーズに診察できるようにもう一週、2週早めるなどの検討をしている。余り4月に近づくと退職者が出て、退職者は早めに休んで人がいない、採用者は4月1日にならないと来ないということも懸念している。採用者に対する新人オリエンテーションなどの行事もあるので、新病院に行ってからある程度たった段階でやるのがいいのかということもある。
- ③ 内定された看護師には、できる限り新しい病院を見ていただいてなれていただくことを考えていきたい。このスケジュールにはうたっていないが、竣工して病院が引き渡された段階で病院職員には先に病院内をきちんと理解していただき、新しく動線が変わることで患者に迷惑がかからないようにそれらを理解してもらうのが第一だと考えている。そういったことも含めて11月引き受け後3カ月くらいかけてじっくりと対応していきたいと考えている。
- 窪之内委員外議員 ① 移動などが終了した後の3月末にこだわらずに4月の一定期間後に開院したほうがいいと思うが、3月に移転をして開院を4月1日にすることは変えないと言った。開院日が4月に入ることはないことを改めて伺いたい。
- ② 新病院になるので職員だけでなく患者も右往左往する危険性がある。かなりのボランティア的な案内も必要と思う。計画の中に一定数配置するというのも入っているのか伺う。
- 鈴木部次長 ① 開院日は3月中旬から下旬で4月に入ることはない。3月中に移転して開院する。3月のどの時点が移転日として最適かという検討をしているところである。月初めだと医事は請求事務が始まるなどの要素もあるので、一番病院にとって大きな問題がない日ということで考えている。
- ② もちろんボランティアで来ていただける方がたくさんいればそういう対応をしたいと考えている。きょうも2名ほどボランティア体験をしていただき登録していただけたことになったと聞いているので、総勢で9名くらいの登録となった。ただ毎日来られるわけではないので、曜日によって不足する分については職員が一時的に対応することも考えている。
- 窪之内委員外議員 ボランティアで9名というのは、開院当初から考えるとかなり少ない。トイレ、検査の場所への案内や歩けない人への介助なども考えるとボランティアをふやす努力をしていると思うが、もっと積極的なボランティア対策を行うことへの

鈴木部次長 考えを伺う。

委 員 長 現在も広報等で募集してボランティア体験を実施しているところだが、一層努力していきたい。

委 員 長 他に質疑はあるか。（なし）私から伺わせていただく。

鈴木部次長 田村委員からも指摘があったが、市内、市外の下請の使い方については届け出制で強制力がないとのことだった。市内の各業界もこの大きなプロジェクトへの関心が高かった。これはある意味では市長の政策でもあり、経済活性化議員連盟も最初にくぎを刺して経済を活性化するように言っている。そのような姿勢がつかぬかっているのか。結果的には82%の進捗状況でこの数字になっているが、この数字はどの時点で元請から請求しているのか。これは地域経済の問題でゼネコンが閉鎖的なのか、それとも技術的なものなのか、厳しくて入れなかったのかといった部分の総枠をきちんとしていたのか。下請選定の報告をどのようにさせていたのか伺う。

委 員 長 改築工事が始まった時点から毎週水曜日に各JV、設計監理等を交えた打ち合わせを行い、月に1回は総合会議ということで範囲を広げた会議を行っている。その総合会議の中で各JVから市内、市外の従業員数の状況を報告いただいていた数字である。私が申し上げたのはその累計の数字である。

鈴木部次長 市内の数はどういう報告に基づいているのか。下請を使ったときの数を合計したものなのか、元請が使っている市内の人数との関係はどうなっているのか伺う。

委 員 長 元請の数ではない。下請として1次、2次、3次として受けている方々の市内、市外の従業員数ということで報告を受けている。

委 員 長 先ほどの件については報告できるようにしておいていただきたい。他に質疑はあるか。（なし）（1）については報告済みとする。

鈴木部次長 **2 その他について**

委 員 長 8月12日から25日までに市役所、新聞社等、議員等に送付された病院改築工事に対する投書について説明する。

田 村 （別紙資料に基づき説明する。）

横田主任技師 説明が終わった。質疑はあるか。

田 村 ① A案とC案は塗装が必要だと最初からわかっていたのか。B案とD案はレンガの原色だということがわかっていたのか。私は知らなかったが、もし塗装をしなければだめだというなら違う案を選んだと思う。ここにいる委員の皆さんは知っていたのか伺う。

横田主任技師 ② 真新しいレンガに塗装することはないという意見も市民から出てくると思う。この投書についても必ずしも間違っただけを書いているとは思わない。C案とD案とどれくらい違うのかわからないが、もう塗装について改善の余地はないのか伺う。塗装には幾らくらかかるのか伺う。

田 村 ①② 塗装面はA案、C案では南側と北側の3階から上の細い部分が塗装を計画している部分である。下の白い部分はレンガの素地なので手はかけない。塗装についての費用だが、今までの委員会でも資材等の単価についての質問があったが、工事が進捗中であることと今後の入札等に影響があることから、個別の価格については回答を控えさせていただいている実態があるので、今回についても価格については差し控えさせていただく。

横田主任技師 塗装する部分は何平米か伺う。

田 村 大きくは4カ所で合計で約580平米である。

田 村
横田主任技師
委 員 長
渡 辺

塗装の質はどうなっているのか伺う。
今計画しているのはフッ素樹脂系の塗料である。
他に質疑はあるか。
初めから塗装が予算に組まれていてどの色にしようかということかと思っていたが、投書にも根拠があるように思える。この投書の内容が違うということを説明していただきたい。

鈴木部次長

ファックスの内容で耐久性の高い外装仕上げ材レンガというのは間違いないことである。わざわざ塗装を施すというのは、わざわざではなく建物のデザインの一部として塗装が必要ということで市民も職員も理解して選んだもので、デザインの意匠は重要なポイントだと思っており、そうでなければ皆さんにデザインを問う必要はないわけで、アンケートを取ってデザインを決定した経過がある。外装仕上げ材をすることによってレンガそのものの耐久性を低下させるという表現だが、耐久性が低くなることはない。数年ごとにとという表現があるが、私どもはフッ素系の樹脂の塗装で15年間は耐久劣化はないとお答えさせていただいたところである。選定しようとしているというのは、外観の色を決めるに当たり、塗装することで決まったということである。最初に塗装するの必要な建材ということかというと、デザイン的なものであると理解いただきたい。現在もまだ色の決定行為を行い、塗料をかせ、無理やり塗装を行おうとしているということもない。レンガに適した塗料が存在しないということもない。総体的な説明としては今申し上げたとおりである。

委 員 長
田 村

他に質疑はあるか。
市民が見たら3階から上を全部塗ると思う。この投書を受けて窓枠だけ、あるいは全部というどちらの感覚で受けとめたのか伺う。

鈴木部次長
委 員 長
堀

最初に受けた印象は全面ではなく、縦のラインの意匠のことだと判断していた。

横田主任技師

他に質疑はあるか。
塗装しなくても今考えている色に近いレンガはないのか伺う。
レンガの色は採取した土の色と焼き温度で決定する。具体的には今回採用したベージュ、そのほかに赤レンガ、花月保育所で使っている黄色いレンガ、少しオレンジがかったもの、こげ茶の5種類がレンガとして出せる色である。このベージュ色も道東のほうでしか採取できない土で、レンガの材料としてはこれ以上白いものをつくることはできない。

委 員 長
酒 井

他に質疑はあるか。
そもそもA、B、C、D案では大きな金額の差はないというのがこれまでの委員会での答弁だった。しかし、580平米ということで結構大きな面積なので、具体的には各案で金額に差が出てくると思うがいかがか。例えばA、C案はB、D案より高いのか、変わらないのか伺う。

横田主任技師
委 員 長
窪之内委員外議員

A、C案のほうが塗装の分価格が高い。
他に質疑はあるか。
① 最初にA、B、C、D案の説明を聞いたとき、レンガの一部の塗装が必要だという認識はなかった。例えばアンケートで決めるときにA、C案はB、D案より塗装分だけ若干高くなるといった説明も必要だったのではと思うが、そうした説明をしなかったと確認してよいか伺う。わざとではなく、デザイン案を考えた方が、値段とは別にどういう病院にするかということでの希望を優先させた結果なのか伺う。
② これは投書という扱いなので公益目的通報制度ということで取り扱わなか

ったと思うが、どのように扱うのか伺う。

③ 毎日新聞や総務省のほうにもファックスが流れているとのことなので、そういうところへはどういう対応をしようとしているのか伺う。

④ 私のところは2度送られてきたが、相手がわからないので答えられない。どう対応するのか。中には市民が署名運動を始めているとのファックスもあったとのことだが、そういう事実をつかんでいるのか伺う。

委員長

これが中傷か何かわからない中で余り過敏に反応するのはいかがか。この問題を委員会でどのように扱うかという観点があるので、担当者も全部には答えられないこともあると思うので、その辺を踏まえて答弁願う。

鈴木部次長

① デザインを市民、職員にアンケートを取る段階で一部塗装をするという内容については、特にそういった文言でわかるような問いはしていない。4案を決めるに当たって、専門のコーディネーターが滝川市の色合いということも含めて絞ってきたこともあり、その中で外観のデザインとしてどうあるべきかを聞いているので、その答えとしてC案となったということである。

② 投書の扱いについては、公益目的通報制度にのっとった扱いをしているわけではない。

③ 総務省北海道管区行政評価局に送られたファックスについては、滝川市の情報提供のみで終了するというものである。これはあくまでも市の予算に基づいて行っている事業と理解しているので特に報告は要らないという扱いになっている。

④ 署名運動については、特に我々のほうでは実態を聞いていない。

委員長

デザイン性については市民の意見を聞いた中でC案に決定した。塗装については15年なりの耐久性があるということで、自信を持ってやっていただきたい。

窪之内委員外議員

毎日新聞に対してはどうしたのか報告がなかったので再度伺う。こういう投書が来たこと自体に内部の情報をよく知る者でないとわからないということから考えると、建築工事全体の中で元請と下請とかいろいろな業者とのトラブルの結果なのかという気がする。先ほど委員長が言ったように何かを中座することはしないで、毎日新聞にもこういう状況であるということを新聞社が報道することもないと確認してよいか。

鈴木部次長

毎日新聞については、皆さんに説明したようにお話しして理解をいただき、特に問題なく取材は終わっている。特に新聞にも載った形跡はない。あくまでもこういう投書に対して中身をせんさくしたりすることは一切考えていないし、すべて憶測になるのでそういった動きも含めて今後何らかの行動を起こす考えもない。

3 次回委員会の日程について

委員長

正副委員長に一任いただくことでよいか。(よし)以上をもって第27回市立病院建替計画等調査特別委員会を閉会する。

閉 会 14:46